

27P-am039

天然物に含まれる睡眠作用物質の探索 —オキシピナタニンの睡眠調節効果—
○小川 優子¹, 東 朋子², 松本 直実², 内山 奈穂子³, 裏出 良博², 小西 天二¹
(¹同志社女大薬, ²大阪バイオ研, ³国立衛研)

【目的】先に我々は、天然からの睡眠調節物質探索の一環として、アキノワスレグサ (*Hemerocallis fulva* var. *sempervirens*) の鎮静効果を明らかにし、活性成分の1つに oxypinnatanine (**1**)を報告した。¹⁾ 今回は、**1** および新たに単離した新規化合物 kwansonine (**2**)の睡眠調節効果について検討した。

【方法】抽出および単離：アキノワスレグサの生葉 (1 kg) を MeOH 抽出し、エキス (50 g) を作製した。得られた MeOH エキスについて、Diaion HP-20 カラムクロマトグラフィーおよびリサイクルHPLCを繰り返し行い、**1** および**2** を単離した。

生物活性試験：10週令の Sprague-Dawley 系雄性ラットに脳波および筋電位測定用の電極を埋め込んだ後、4日間順応させた。1日目にはコントロールとして水のみを、2日目には単離化合物 (10 mg/kg) を経口投与し、脳波および筋電図を測定した (n=4)。なお、脳波は脳波記録ソフトウェア”Sleep Sign” (キッセイコムテック社) を用いて解析し、覚醒、ノンレム睡眠、レム睡眠のいずれかに判定した。

【結果・考察】投与後5時間の脳波を解析したところ、**1** 投与後のマウスはノンレム睡眠時間が有意に増加し、レム睡眠時間は増加傾向が認められた。したがって、**1** の睡眠調節効果が示唆された。**2** の活性については、現在検討中である。

1) 小川他, 日本薬学会第 128 年会, 要旨集 2, p90 (2008).

